

水害特集号の発行に当つて

Sato, K. Forewords

昭和23年6月25日朝から降り出した雨は29日まで、九州の中部から北部にかけて600~700ミリの大雨となり、これらの地方に過去の災害史に類をみない大水害を惹起した。特に今回の水害地域は筑後・佐賀・熊本平野等九州の代表的水田地帯で、その冠水面積は水田のみでも14万町を越え農業上に与えた被害はけだし甚大なものがあつた。

水害克服のために農家・技術者その他関係者の払つた努力は涙ぐましいものがあつたが、特に痛感されたことは過去における水害に際しとられた被害の実態或は対策の結果が記録として残されたものが極めて少く、したがつて応急対策を樹てる上に支障が少くなかつたことである。

そこで我々農業技術者としては、今回の未曾有の水害を実験の場としてその実態なりまたはその対策についてこれを検討し、報告として残すことは将来再びかかる災害に際し貴重な資料となることを信じ、第14回研究発表会においてはその大部を水害関係の発表に割ぐこととした。多数貴重な調査研究報告が行われた本号を特に水害特集号とした所以である。これが今後の水害に際し、対策上の指針の役割を演ずるものとすれば幸とするところである。

昭和29年9月

九州農業試験研究機関協議会長

農学博士 佐藤 健吉